# ★消されたガザの命＝アミラ・ハス

## イスラエルはパレスチナ人家族全員を故意に殺害している

以下に紹介するのは、イスラエル人ジャーナリストのアミラ・ハスが 5 月 19 日付けのイスラエル日刊紙「ハーレツ」に寄稿したコラム。同国の人権団体が 2014 年のイスラエル軍によるガザ爆撃を検証した報告書をもとに、今回の攻撃も、「戦争」や「報復攻撃」ではなく、無関係の一般市民を意図的に殺害している虐殺行為であると告発している。筆者はハーレツ紙の記者として長年ガザや西岸に在住し、パレスチナ人を取材している。（編集部）

イスラエルによるガザ爆撃で家族全員を殺害する数々の事件＝親と子、赤ちゃん、祖父母、兄弟＝は、これらの殺害が間違いで起きたものではないことを証明している。爆撃は、軍事法学者の承認をうけ、上層部からの決定に従ったものだ。

5 月 10 日から 17 日までの週にイスラエルによるガザ砲撃で、パレスチナ人の 15 家族が殺害された。最低が 3 人の核家族で、他はそれ以上の人数の家族だった。イスラエルが彼らの家を爆撃したとき、家が崩れて両親と子供、赤ちゃん、祖父母、兄弟、甥と姪が一緒に死んだ。知られている限り、標的になった家から住民を避難させる事前の警告はされていなかった。

パレスチナ保健省は 15 日、殺された 12 家族の名前を公表した。それぞれが自宅で、1 回の爆撃で殺された。続く 16 日未明の空襲は 70 分間続き、ガザのリマル地区アルウェダ通りにある 3 つの家で、3 家族合計 38 人が殺害された。何人かの遺体は 16 日の午前中に発見されたが、パレスチナの救助隊が残りの遺体を見つけて瓦礫から搬出できたのは、夜になってからだった。

爆撃で家族全員を殲滅するのは、2014 年の戦争の特徴の 1 つだった。約 50 日間続いたこの戦争では、国連の統計によれば、パレスチナ人の 142 家族（合計 742 人）が消された。当時と今日起きている数多くの事件は、これらが間違いでおきたものではないことを証明している。そして、家族全員が居住している家にたいするこの爆撃は、軍事法学者による検討と承認を得た上で上層部の決定に従ったとものであることを証明している。

イスラエルの人権団体「ベツェレム」が 2014 年の戦争で殲滅されたパレスチナ人約 70 家族について調査した。その結果、なぜ多数の家族が一回の爆撃で自宅で殺されるのかについて 3 つの説明をしている。一つは、イスラエル軍が住宅所有者やその入居者に事前の警告をおこなっていないか、あるいはおこなっても時間どおりに正しいアドレスに届けられていないということだ。

いずれにせよ際立っているのは、住民が中にいたまま爆撃された建物と、第 2 日目の攻撃で、白昼砲撃された高層ビル「タワー」の運命との違いである。伝えられるところによると、「タワー」の所有者あるいは守衛が、一時間前に、イスラエルの軍あるいはシンベット（治安部隊）から電話で避難するようにとの事前警告をうけ、その後ドローンから「警告ミサイル」が発射されていた。これらの所有者/守衛は、短時間で他の居住者に警告することになっていた。

高層ビルだけではない。13 日の夜、カーン・ユニスの西にあるオマール・シュラブジの家が砲撃された。道路に大きな穴があき、2 階建ての建物の一部が破壊された。その建物には、2 家族 7 人が住んでいた。

パレスチナ人権センターの報告によると、爆発の約 20 分前に、軍はシュラブジに電話し、叔父のオアールに家を出るように言えと伝えた。オマールがそこにいたかどうかはわからないが、居住者は全員退去したので、死傷者はいなかった。

イスラエル軍とシンベットが避難の警告を与えるのに苦労しているというまさにこの事実は、イスラエル当局が破壊する予定の建物いる人たちの電話番号を知っていることを示している。彼らはハマスまたはイスラム聖戦の活動家やそれと疑われる人物の親族の電話番号をも持っているのだ。

ガザを含むパレスチナ人の住民登録は、イスラエル内務省の手に委ねられており、それには氏名、年齢、親戚、住所などの詳細が記されている。

オスロ合意は、パレスチナ自治政府・内務省にたいし、民事関連の情報とくに出生についての情報をイスラエル側に定期的に報告するよう求めている。この住民登録データはイスラエルの承認を得る必要があり、それがないとパレスチナ人は ID カードを受け取ることができない。必要な時、あるいは未成年者の場合、イスラエルが管理する境界を越えて一人または両親と一緒に旅行することができないのだ。したがって、軍が何らかの理由をつけて爆撃するすべての住宅に住む子供、女性、高齢者の数と名前を知っていることは明らかだ。

2014 年に家族全員が殲滅された理由についてのベツレムの調査の 2 番目の説明は、攻撃可能な「軍事目標」についてのイスラエル軍の定義が非常に広範であり、そのなかにはハマスとイスラム聖戦の人々の住居が含まれていたことだ。これらの住居は、電話しかなかったり、あるいは会議が行われただけでも、作戦拠点、組織の指揮命令拠点、あるいはテロ拠点と記されていた。

2014 年のベツェレム分析の 3 番目の説明は、軍の「巻き添え被害」の解釈は非常に柔軟で幅広いというものだった。軍は、関与していない民間人への危害と合法的な軍事目標の達成との間の「比例」原則に従って行動すると主張した。言い換えれば、すべての場合において、パレスチナ人に引き起こされた「巻き添え被害」が測定され、考慮されるというわだ。しかし、ハマスのメンバーの「重要性」が高いと見なされ、その居住地が爆撃の正当な標的として定義されると、「許容できる」巻き添え被害、言い換えれば、子供や赤ちゃんを含む関係のない人々の殺害数は非常に広範囲になる。

ガザのアルウェダ街にある 3 つの住宅への 16 日未明の集中爆撃で、アブアルウフ、アルコラック、アシュコンタナの 3 家族が殺害された。一家族の死者数が非常に多い場合、リアルタイムで生存者を見つけて、各家族と人々の最後について話してもらうのは難しい。

したがって、人権団体の日報に記載されているように、名前と年齢で間に合わせなければならない。かれらは家族が軍事組織に所属しているかどうかの情報を収集し、知っている場合は記載している。これまでのところアル・ウェダの建物の住人の中で家族全員の抹殺が「許可」されるような重要な標的がいたかどうか、いたとすれば誰だったかは不明だ。

殺害されたアブアルウフ家のメンバーは次のとおりだ。シファ病院の内科医である父親のアイマンと彼の 2 人の子供：タウフィク（17 歳）とタラ（13 歳）。加えて 2 人の女性が殺されている。レーム（41 歳）とラワン（19 歳）。5 人の遺体は爆撃の直後に発見された。アブアルウフ家の別の 8 人の遺体は夕方に廃墟から引き出された。彼らは次のとおり。スビヤ（73 歳）、アミン（90 歳）、タウフィク（80 歳）とその妻マジヤ（82 歳）、親戚のラージャ（アフランジ家の男性と結婚）と彼女の 3 人の子供：ミラ（12 歳）、ヤゼン（13 歳）、ミール（9 歳）。

これらの建物への空爆で、アビル・アシュコンタナ（30 歳）と彼女の 3 人の子

どもが殺害された。ヤヒヤ（5 歳）、ダナ（9 歳）、ジン（2 歳）だった。夕方、さらに 2 人の少女の遺体が見つかった。ルーラ（6 歳）とラナ（10 歳）。パレスチナセンターの報告書は、これらの 2 人の子供がアビルの娘であるかどうかについては言及していない。

隣接する 2 つの建物で、アルコラク家の 19 人が殺害された。ファウズ（63 歳）と彼の 4 人の子供。アブデュルハミド（23 歳）、リハム（33 歳）、バハー（49 歳）、サメ（28 歳）、妻のイヤット（19 歳）。生後 6 か月の赤ちゃんクサイも殺された。拡大家族の別の女性アマル・アルコラック（42 歳）も殺され、彼女の子供のうち 3 人が殺された。タヘル（23 歳）、アフマド（16 歳）、ハナア-15 歳。そしてイザット（44 歳）も殺され、イザットの子供たち、ジアッド（8 歳）と 3 歳のアダム。女性のドア・アルコラク（39 歳）とサーデア・アルコラク（83 歳）も殺害された。夕方、ハラ・アル・コラック（13 歳）と妹のヤラ（10 歳）の遺体が瓦礫の下から搬出された。パレスチナセンターの報告は、彼らの両親が誰であるか、そして彼らも爆撃で殺されたかどうかについては言及していない。

（「ハーレツ」5 月 19 日付けから　翻訳　田中　靖宏）